

入 選

次世代に水を残してゆく

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校

二年 山 本 華 穂

「水」それは、私達の命にとって最も身近で、必要不可欠なものです。しかし、身近にあるからこそ、その大切さを改めて考える機会は少ないのではないのでしょうか。

水の惑星と呼ばれるのにふさわしく、地球の表面積は約七割が水に覆われています。ところがその中でも私達が使える淡水にあたるのは、わずか二・五パーセントほどだと言われています。さらに調べてみたところ、現在の世界人口が八十一億人以上いるなかで、その四分の一ほどにあたる約二十億人の人が、安全に管理された飲水の供給を受けられていないということを知り、とても驚くと同時に自分たちは恵まれているということを強く感じました。そし

て全ての生命にとってのみなもとである水のひと雫ひと雫を、日々大切に使わなければならないと思うようになりました。

実際に、学校で行っている探求活動の一環で学校付近の河川の水質を調査していて実感したのは、数値に起こしてみると、見た目や透明度に反して、水質汚濁の程度を示すCODの基準値を大幅に超えている地点もあるのだということです。このように適切に管理されていない水をそのまま飲むことはとても危険であり、人体に響を及ぼす可能性がとても高いのです。こうした現実を知ると、蛇口をひねる、あるいは手をかざすだけできれいな水がすぐに得られるという日本の光景は、決して当たり前ではない事が身にしみて感じられると思います。

水に関する問題はこのような水質汚染だけでなく、世界には、渇水や水不足に悩まされる国もあります。そうした水問題の影響は人間のみならず、他の生物にも及んでいます。例えば、水質汚染によって海のプランクトンが増え、赤潮が発生したり、海中の酸素不足による魚・貝の生息地の減少が各地で起こっ

ています。絶滅の危機まで追いこまれる生物もいるのです。

私たちの多くは、「限りある水を大切に」というスローガンのもと、幼い頃から節水に取り組んできたと思います。しかし、まずは一人ひとりが水と地球の現状をしっかりと見つめ、水を取り巻く様々な問題への理解を深め、それから自分の身の回りできそうなことを自らの意志で探していくという心がけも非常に大切だと考えます。例えば、手を洗うとき、歯を磨くとき水を出しっぱなしにしない、当り前ですが、言われるがままにする節水と、自ら選んでする節水とは、行為のもつ意味が大きく変わってくると思います。

長い歴史の中で、水はたくさん命を育み発展させてきました。また、私たちの命だけにとどまらず、現代の便利で贅沢な生活も、その進歩の裏では、数え切れないほどの水が使われてきたのです。ところが今まで人類は水の存在に感謝こそすれ、有限である水の消費に目を向け、考える人は少なかったように思います。今になってようやく、私達は守るべき

水の存在に気付いたのではないのでしょうか。だからこそ、私たちには、次の世代にきれいな水を残していける可能性があると考えています。

その可能性を信じて、私はわたしにできることを探し、行動していきたいです。